

## 大分大学

大分大学教育福祉科学部 石橋 健 司

### 大分大学の体育・スポーツ

2004年に国立大学法人大分大学が設置されてからの医学部、教育福祉科学部、経済学部、工学部の4つの学部の体育・スポーツについて概観します。

以前は、各学部には体育・スポーツ関連の教員が配置され、それぞれの教員は専門分野の研究を行いながら、教養教育の身体スポーツ科学科目(必修)を担当していました。

現在は、それぞれの学部においては、カリキュラムの見直し、定員の不補充や教員組織の改編等が行われ、医学部と経済学部には体育・スポーツ関連の専任教員は配置されてはいません。教育福祉科学部と工学部には体育・スポーツ関連の専任教員は配置されています。

改編等に伴い教養教育の身体スポーツ科学科目は、医学部と経済学部では選択科目となり非常勤講師が、工学部では選択科目となりましたが専任教員が、教育福祉科学部では必修科目のままで専任教員が担当しています。

### 体育・スポーツ関連の授業科目

教育福祉科学部と工学部には、体育・スポーツ関連の専任教員が配置されていますので、ふたつの学部の紹介をします。

### 教育福祉科学部の体育・スポーツ関連の授業科目

体育・スポーツ関連の教員は、学校教育課程(西本先生、住田先生)、情報社会文化課程(麻生先生)、人間福祉科学課程(谷口先生、石橋)に所属し、それぞれの課程で専門教育を行っています。

学校教育課程では、保健体育撰修があり、小学校教諭一種免許、中学校一種免許(保健体育)を取得するためのカリキュラムが構成されています。開設授業科目は、「保健体育科教育法」「体育学概論」「学校保健」外があります。

情報社会文化課程では、総合表現コースがあり、舞踊を中心とした教育研究が行われており、音楽や美術等の芸術表現と身体表現を総合的に学ぶめずらしいカリキュラムが組まれています。

授業科目には、「身体表現実習」「舞踊創作」「ダンス」外があります。

人間福祉科学課程では、スポーツ健康分野があり、レクリエーションインストラクタ資格、高校教諭一種教員免許(保健体育)が取得できるようカリキュラムを構成しています。授業科目は、「レクリエーション組織経営論」「ニュースポーツ」「生涯スポーツ総合演習」外がありますが、そのひとつ生涯スポーツ総合演習を紹介しましょう。

受講学生1年から3年までの45人を1年、2年、3年の混成する8つのグループに分けて、3年をリーダーとします。グループ単位で学外においてイベントや事業を展開しますが、その企画、運営実施、評価の作業を主体的に進めます。年2回のイベントを開催するように指導しており、この実践を通して企画や指導能力を養成しようと考えています。

また、以上の専任教員は専門教育と同時に教養教育の身体スポーツ科学を担当しています。身体スポーツ科学は半期で2単位を取得でき、1年次の前期または後期において受講します。授業科目は、「スポーツと健康づくりの科学」「レクリエーションナルスポーツの科学」「エクササイズの理論と実践」外があります。

### 工学部の体育・スポーツ関連の授業科目

体育・スポーツ関連の教員は2名(前田先生、岡内先生)で、福祉環境工学科メカトロニクスコースに所属し、主にバイオメカニクスやスポーツ工学に関連する教育と研究を行っています。授業科目は、「身体運動機能論」「人間工学」「生体運動制御論」外があります。このコースの学生の内、バイオメカニクスやスポーツ工学分野に興味、関心を持つ学生の卒業研究の指導を行っています。

また、専門教育と同時に身体スポーツ科学を担当しています。前述のように工学部では、身体スポーツ科学は選択科目となりましたが、およそ1年次の80%程度は毎年受講して単位を取得しています。授業科目は、「生涯スポーツの足がかり」「健康トレーニング」「バレーボールの科学」外があります。

## これからの大分大学の身体スポーツ科学

一昔前の一般教養一般体育（必修）は、4単位を2年間で取得するものでしたが、今では身体スポーツ科学として2単位を半期で取得するしくみに変わりました。

また、体育・スポーツ関連の専任教員がこれまで定年退職、転出してきましたが、専任教員の補充は円滑には行われておらず、徐々に体育・スポーツ関連の専任教員は減少しているという実態があります。

学生にとっては身体スポーツ科学という授業科目は、身体科学やスポーツ科学の知識や技能を身につけるための最後の学習機会となります。学生の身体やスポーツについて学習する機会が減少することはたいへん残念なことと言わざるをえません。

これからも大学での身体科学、スポーツ科学に関する教育と研究が継続されるよう専任教員の確保が必要であると思います。

## 学生の課外活動

### 体育・スポーツ系のクラブ

旦野原キャンパスでは、体育会に所属するサークルは30、体育会に所属していないいわゆる同好会は27です。体育会に所属するサークルは体育会規約に則って活動を継続しています。また同好会は大学に団体結成届を提出して学内施設用品等を利用して、また学外の

施設等を借用し活動しています。同好会は必ずしも特定のスポーツ種目を行う団体だけでなく、学生間の親睦、コミュニケーションを深めることを主眼において多種目を実施している団体もあるようです。

狭間キャンパス（医学部）では、18体育系サークルが活動しています。

### 旦野原キャンパス（教育福祉科学，工学，経済学の3学部） 体育会に所属するサークル（30）

合気道，空手道，弓道，剣道，柔道，拳法，テニス，ソフトテニス，ゴルフ，ラグビー，サッカー，山岳，自転車，自動車，女子バスケット，女子バレー，男子バスケット，男子バレー，水泳，体操競技，卓球，硬式野球，バドミントン，パワーリフティング，ハンドボール，ヨット，陸上競技，ワンダーフォーゲル，キックボクシング，テコンドー

### 体育会に所属していない同好会（27）

バスケット，バレー，サッカー，テニス，バドミントン，ウインドサーフィン，登山，ソフトボール，多種多様なスポーツ種目を行う団体等

### 狭間キャンパス（医学部）

### 体育系サークル（18）

剣道，弓道，少林寺拳法，ワンダーフォーゲル，準硬式野球，ラグビー，サッカー，バレー，卓球，テニス，バドミントン，バスケット，ソフト，水泳，ボードセイリング，陸上競技，自転車，ヨガ等

## 平成21年度「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春期研修会の概要

1. 開催期日：平成22年3月13日（土）～14日（日）

2. 会場：福岡県筑紫野市 二日市温泉大観荘

3. 研修内容

大会テーマ：「大学スポーツのパラダイムシフト ― 大学スポーツの変革に向けて ―」

(1) 招待講演

「日中大学生の運動実態調査および中国全民健身の現状」

高 健（天津中医薬大学）

(2) シンポジウム：大学におけるスポーツ活動と体育授業の接点を探る

「生涯スポーツ社会における大学体育とスポーツ」

山本 教人（九州大学）

「私立大学の体育実技とスポーツ活動の現状」

大浦 隆陽（福岡国際大学）

「大学体育授業の大学スポーツへの貢献 ― 運動障害の予防を例にして ―」

飯干 明（鹿児島大学）

(3) 研究発表

「大学運動部活動が学生の「生活能力」獲得にもたらす各種効果に関する実証的研究  
― O 大学における学生調査をもとに ―」

内倉 康二（大分大学大学院）

「スポーツ選手の心理的側面に及ぼすドラマチック体験の影響」

阿南 祐也（九州大学大学院）

「女子学生の気質に対応した体育実技の構築」

柿山 哲治（活水女子大学）

「実技授業における生活習慣改善を意図した介入の効果」

正野 知基（九州保健福祉大学）

「大学体育の効果とその持続性に関する研究(1)」

丸井 一誠（福岡大学非常勤講師）

「大学体育の効果とその持続性に関する研究(2)」

中山 正剛（別府大学短期大学部）

「高齢者の身体活動・運動と認知機能の関係」

堀田 亮（九州大学大学院人間環境学府・日本学術振興会特別研究員）

「質問紙による推定最大酸素摂取量の有用性 ― 大学生を対象として ―」

山崎 先也（福岡医療福祉大学）

## 平成21年度春期研修会に参加して

九州大学大学院 博士課程3年 堀 田 亮

福岡県筑紫野市にて開催されました平成21年度春期「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」に参加し、研究発表させていただきました。今回の研修会では、「大学スポーツのパラダイムシフト-大学スポーツの変革に向けて-」というテーマで、1日目に研究発表、招待講演、そして2日目にシンポジウムが行われました。

研究発表におきましては、大学体育、スポーツに関する先生方の実践的な取り組みについてお話いただきました。筆者自身も、「高齢者の身体活動・運動と認知機能の関係」というテーマで発表し、高齢者において運動習慣が認知機能と関わること、そして高齢期の運動習慣のために青年期から運動習慣を身につけておくことが大切だと提言させていただきました。対象者が高齢者ということで、「研修会のテーマにそぐわないのでは」と不安に思いましたが、フロアの先生方から温かいご指摘をいただき、大変勉強になりました。

また招待講演では、日中大学生の運動実態調査および中国全民健身の現状について、高健先生（天津中医薬大学）より紹介していただきました。発表では、大学生の運動・スポーツに対する意識と行動について中日比較を行った結果が示され、計画行動理論の構成概念である行動意図、主観的規範、行動の統制感の得点は日本人のほうが高いことなどが報告されました。本連合において行われた大学生を対象とする研究プロジェクトに関わっていたこともあり、中日比較を行った高先生の発表は大変興味深く、それと同時に国際比較研究を行っていく必要性を痛感するものとなりました。

2日目のシンポジウムでは、「大学におけるスポーツ活動と体育授業の接点を探る」というテーマで、山

本教人先生（九州大学）、大浦隆陽先生（福岡国際大学）、飯干明先生（鹿児島大学）より発表がありました。山本先生からは、生涯スポーツの目的や定義、そして今大学体育に求められているものについてお話がありました。特に、スポーツとその価値の「学び直し」の機会を大学体育が提供することを求められているのかもしれないという話は、今後の大学体育のありかたを考える上で非常に重要な視点だと感じました。大浦先生からは、先生ご自身の大学の体育授業やクラブ活動の紹介があり、大学の体育教員として何ができるのかについて発表がありました。筆者自身としては、他大学の現状について詳しく知る機会というのは実はあるようで少ないのではと常日頃感じており、大変学ぶことが多かったように思います。飯干先生からは、運動障害という視点で体育授業のスポーツへの貢献について紹介がありました。大学体育とスポーツ両者に共通して求められるものは「安全」であるという報告は、いついかなる時も心に留めておかなければならないものであり、安全面への対策は常に徹底すべきだと改めて実感するものでした。

今回、初めて研修会に参加させていただき、大学体育、スポーツについて考えるとても良い機会となりました。大学生の運動部離れが進み、その対策が急務となっています。筆者自身、まだ学生であり未熟者ですが、これから大学教員を目指す者として諸先生方にご指導いただきながら、この課題について今後考えていければと思います。

最後になりましたが、研修会開催にあたりご尽力いただいた中垣内先生はじめ事務局の先生方に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。